

## 2-6 シーケンシャル

# シーケンシャルの役割

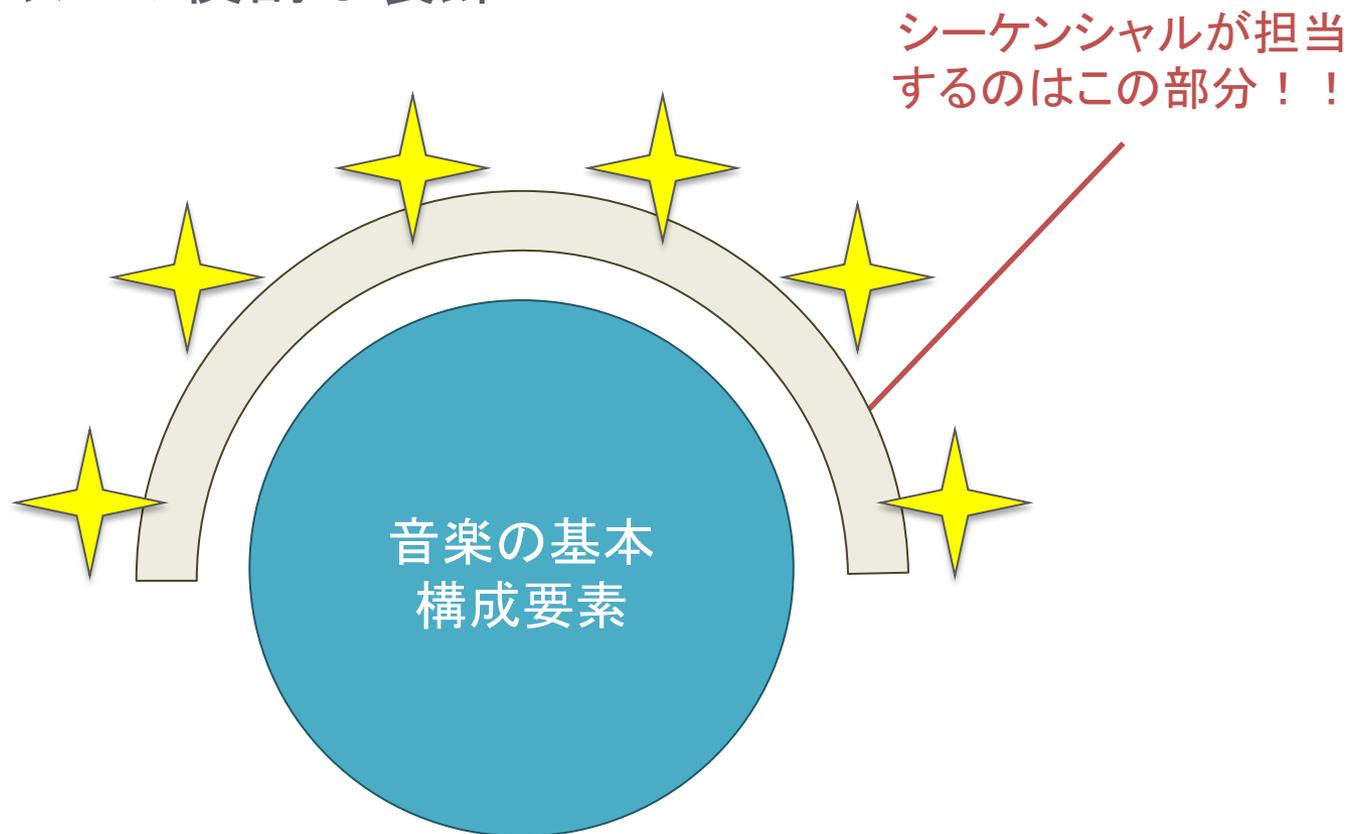
シーケンシャルの役割は「**装飾**」。

音楽の基本的な構成要素は、ベース、リード、プラグック(+ドラム)だけでも十分にまかなえているので、シーケンシャルがその部分を担当する必要性はない。

むしろ、それらだけでは表現でしにくい、楽曲の豪華さ、絢爛さ、華やかさを出すべくシーケンシャルを活用しよう。

# シーケンシャルの役割

シーケンシャルの役割は装飾！



# シーケンシャルの種類

## ■ アルペジオ系シーケンシャル

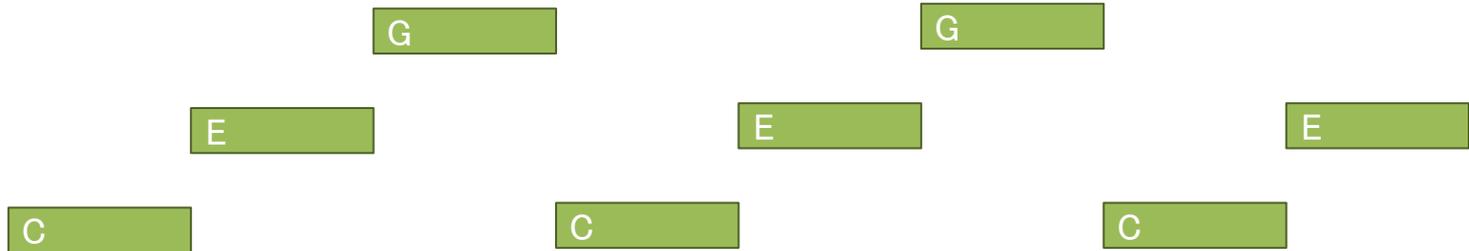
指定されたノート・音価をもとに、アルペジオ（分散和音）を演奏するシーケンシャル。原則として単音をアルペジオで演奏することが多いのでモノシンセが使われることが多い。アルペジエーターなどのシーケンス再生機能を使って自動演奏するのが一般的だが、手打ちするのもOK。

## ■ パルシング系シーケンシャル

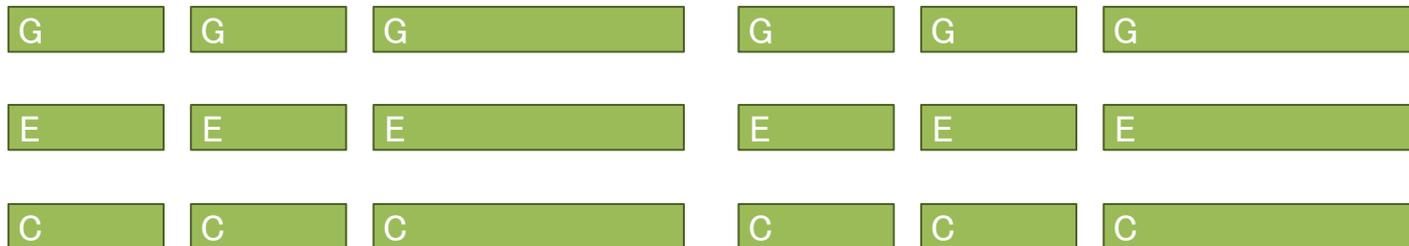
指定されたノートを一定のパターンでリズムカルに刻むシーケンシャル。和音を演奏することも少なくないためポリシンセを使用することが多い。こちらも、ステップシーケンサーなどの機能を用いて自動演奏するのが一般的だが、手打ちも可。

# アルペジオとパルシングの違い

## ① アルペジオ系シーケンシャルをコードCで演奏



## ② パルシング系シーケンシャルをコードCで演奏



## シーケンシャルのアレンジ法

シーケンシャルのアレンジ法は、これといって明確な決まりはない。とはいえ、シーケンシャルはあくまで「装飾」が目的であるため、必要以上に投入してしまうと他のパートの邪魔になりアレンジが破綻する原因になる。さりげなく取り入れて、上品なアレンジを目指そう！

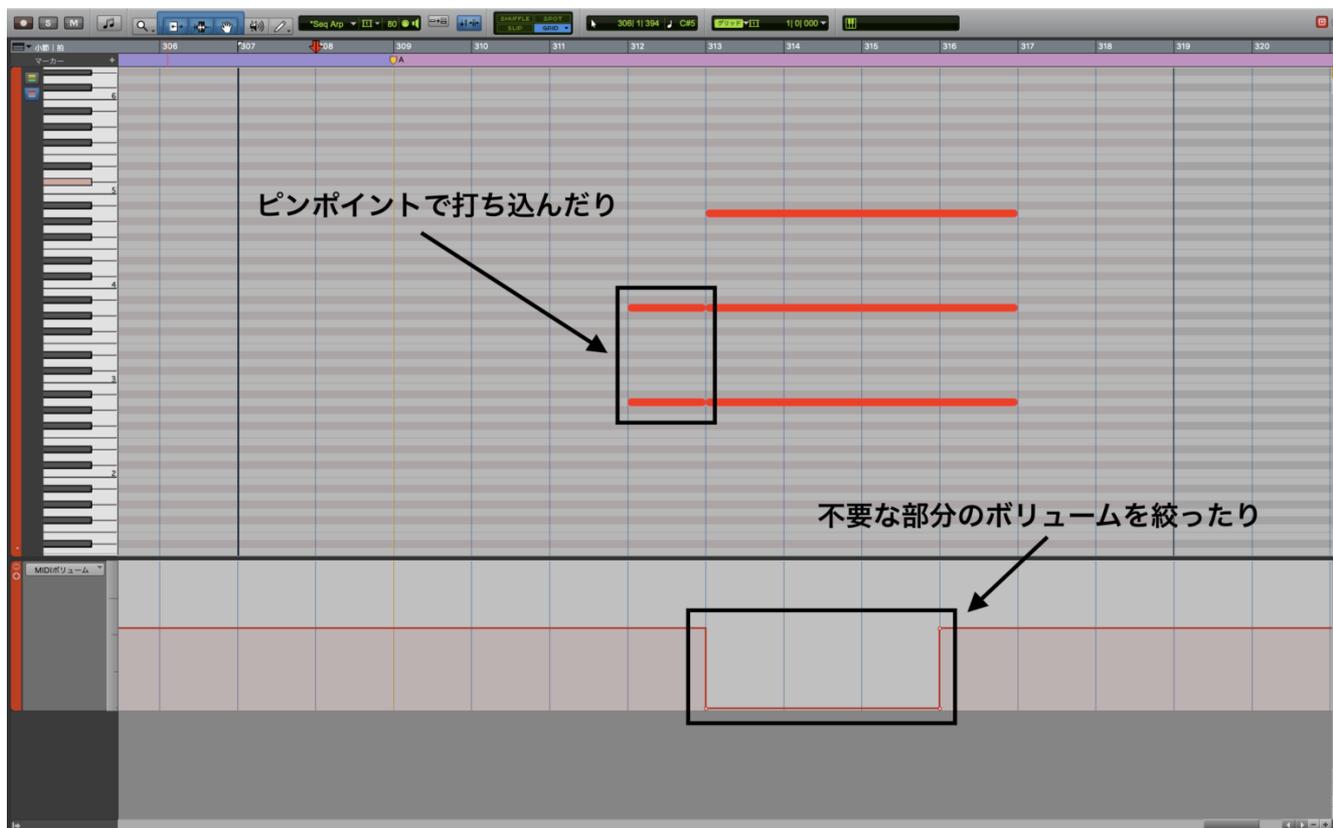
# ① ベタ付きで入れる場合は目立ちすぎない音色・音量で

フレーズ全体にシーケンシャルをベタ張りする場合は、控えめな音色・音量で入れた方がクール。



## ② ピンポイントでアクセント的に使用するのもアリ

楽曲の箇所箇所でピンポイントで使用するのもよい。必要な部分だけ打ち込んだり、不要な部分のボリュームを絞るなどして使おう。



# シーケンシャルの音作り: アルペジオ系の場合

アルペジオ系シーケンシャルは、単音での発音が前提のため、モノシンセを使おう。以下の要領で作ると簡単に作れる。

- リードの音を(加工して)使用する
- ベースの音域を上げて使用する
- プラックをモノで使用する

音色が出来上がったら、アルペジエイターや手打ちなどでアルペジオの演奏パターンをプログラムしていこう。。

# シーケンシャルの音作り: アルペジオ系の場合

## ■ アルペジエーターの例 (Omnisphere2)



# シーケンシャルの音作り: パルシング系の場合

こちらは和音での発音がメインとなるため、ポリシンセで音作りしていこう。以下の要領で作るとよい。

- リードをポリで使用する
- ベースの音域を上げてポリで使用する
- プラックの音を(加工して)使用する

こちらにも、音色が出来上がったらステップシーケンサーや手打ちでパターンをプログラムして完成。

# シーケンシャルの音作り: パルシング系の場合

## ■ ステップシーケンサーの例 (Massive)

